



## 初めて訪れたときから虜になり、はや40年 萬里小路昌秀、智恵子さん夫妻

# 実際に来てみたら、やっぱりハワイ

ハワイでは多くの日本人が暮らしているが、もうハワイと付き合い始めて40年という人はそう多くはないだろう。海を愛し、ヨットを愛し、ハワイの自然と文化に惚れ込んで、その地に根を下ろしたご夫婦に話を伺った。

当時、萬里小路昌秀さんが勤めていた会社が、ハワイでのヨットレースに自社開発の艇で挑戦しようというプロジェクトを立ち上げた。それが始まりとなった。

「私が初めてハワイに来たのは1984年、有名な外洋ヨットレース“パンナム・クリッパーカップ”の調査が目的でした。それまでは、誰もがハワイ、ハワイと言うので、あまり興味を持ってなかった。でも、実際に来てみたら素晴らしくて、すっかり好きになってしまいました」

そして2年後の1986年、第1回ケンウッドカップに挑戦し、2カ月間のホノルル遠

征となった。夫人の智恵子さんも途中から合流し、ハワイの虜になり、「将来ここに住めたらいいね」という話を始めるようになったという。

「その翌年に、自宅のマンションが高値で売れたので、余剰金で将来の夢を買おうと、ホノルルにコンドミニアムを購入しました。そのときは住むならホノルルだと思っていましたから。とはいえ、移住はまだまだ夢物語でしたけれどね」

手に入れたコンドミニアムは、将来の移住に備えて長期で貸し出した。

「その後は二人とも日本で仕事を続け、

毎年ゴールデンウィークにハワイに行っては、将来ここに住むとしたらどんなことができるだろうと話し合いながら、ちよつとずつ夢を温めました。住むなら健康に暮らせるところがいい、ハワイに来ると二人とも元気になる。それは明らかでした」

ちなみに、智恵子さんは聖心女子大学卒業後、三菱商事に入社し、営業の仕事に就いてビジネスの最前線にいた。総合会社の中でも新しい分野に配属され、上司にも恵まれて、仕事を任せられ飛び回ることができたという。

一方、昌秀さんは関東自動車工業(現トヨタ自動車東日本)でヨットの開発をしていたが、その仕事会社が方針で打ち切りとなってしまった。自動車部門に移ったものの、そこでの仕事は本人の興味と

はまったく別のところにあって不本意な日々を送っていたという。そんなある日、都内のテニスクラブで知り合った某倉庫会社社長と、運河に浮かぶグランドバンク스에서会うことになる。運河沿いに建つ古い倉庫の再開発プロジェクトに力を貸してほしいと誘われ、転職を決めた。

「そちらで11年間、さまざまな興味深い業務に携わりましたが、体調を崩してしまったので、今こそ夢をかなえるとき、と退職を決意しました。その年(1998年)の秋、移住に必要なビザ取得の件で移民弁護士に会いに妻と共にハワイに行きました。しかし、ビザの取得はとでも難しいとの現実を突きつけられた」

このとき偶然にも、ホノルルに住む昌秀さんの友人が、難しい病を患った父親の介護を助けてくれる人を探していることを知った。その友人から「来れば？ 食事も泊まることも用意するから」と誘われて、昌秀さんだけ先に介護ヘルパーとして一人でハワイに行くことにした。日本でホームヘルパー3級の資格を取り、ホノルルへ。ハワイにいれば移住へのきっかけをつかめるかもしれない、との思いもあった。

それから数カ月後、願ってもない話が今度は智恵子さんのもとに舞い込んできた。ハワイ島カイルア・コナで、日本航空と



萬里小路ご夫婦。智恵子さんの仕事については、22ページでも紹介している

アリゾナのデベロッパーが共同して、プライベートゴルフコース付き高級住宅地の開発が始まっていた。そのプロジェクトの担当者が萬里小路夫妻の知人で、日本の顧客を受け入れる現地スタッフを探している、ビザの取得もサポートするという。

世はまさに人の縁である。智恵子さんはもちろん「やります!」と応えた。移住に必要な条件が整ったので三菱商事を退社、昌秀さんもホノルルを引き払って、めでたくハワイ島コナで新生活を始めることとなった。とはいえ、当時、智恵子さんが取得したビザでは、配偶者の就労は認められなかった。

「そこで私は家事など妻のサポートをし

つつ、購入したオーシャンビューの宅地に建てる家の設計をしました。着工後は毎日のように建築現場に足を運び、ときには作業も手伝い、2000年の秋に竣工しました」

一方、智恵子さんは、ハワイ州の不動産販売に必要な免許(日本の宅建に相当)を取るために、「人生で一番勉強した」と思うほど猛勉強。その甲斐あって、2000年春に一発で合格を果たした。

しかしコナの不動産開発事業は、主要出資者の他事業での不振や、その後のリーマンショック(2008年)のあおりを受けて大規模なリストラとなり、智恵子さんは一時職を失ってしまった。幸いグリーンカードは取得済みだったので、コナ移住時からの人脈と高額不動産取り引きの経験を生かして、現在も勤務するアラライ・リアリティーに再就職できた。今年で勤続15年になる。

そして昌秀さんは、ヨット、ゴルフ、テニスなどのスポーツや建築の知識を生かして、日本から来る智恵子さんのお客さまのサポートをし、妻を支えている。

多くのひととの良縁を得て実現に至ったお二人のハワイ暮らし。その魅力は、プライズレスな自然の恵みと、心温かい人々との出会いだという。お二人の笑顔に屈託はない。

ハワイ島西岸沖からカイルアコナへアラライを望む

